東北大学 21 世紀 C O E プログラム (人文科学)
「言語・認知総合科学研究教育拠点」(拠点リーダー：堀江 薫)

中間外部評価報告書

平成 16 年 3 月 12 日

外部評価委員

井出 祥子 日本女子大学教授
粕谷 英樹 宇都宮大学副学長・教授
小嶋 祥三 慶応大学教授

総合評価と評価概要

<ol style="list-style-type: none"> 1 .十分に達成できている 2 .概ね達成できている 3 .やや不足である 4 .まったく不足である 	<p>学際的な色彩の濃い研究者集団が、fMRI 等の実験装置を共通の研究手段として、特色ある言語・認知の研究を推進するとともに、ローテート研修制度を導入して、広い視野と研究方法論を身につけた若手研究者の育成を図っている。</p> <p>本研究教育拠点が、当初に掲げた3つの目標、文理融合型学際的研究拠点の形成、脳内観測データに基づいた言語学の実証的な理論科学としての体系化、実証科学としての言語科学の国際的研究発信拠点形成、に向かって着実に成果を上げている。</p> <p>については今後に期待するところが大きい、権威ある国際誌を含む国際会議等での研究発表状況、海外の研究者も交えた11回にわたる公開講演会の開催、著名な海外研究機関との共同研究の企画、外国人留学生・研究者を含む有為な若手研究者の育成、などの面で優れた成果を上げており、と は十分達成していることが認められる。従って、中間評価段階では、「総合的に見て、十分目標を達成できている」と評価できる。</p> <p>3名の外部評価委員が一致して評価した点は、fMRI を中心にした実証的な言語・認知に関する研究成果とローテート研修制度の実現である。前者はいろいろな言語タスクのもとで脳内活動を可視化するものであり、外国語学習、異文化交流、言語障害のリハビリテーション医学などへの応用が期待される。後者も、我が国では特色ある試みであり、今後、拠点で育った若手研究者が新しい研究方法論を展開しながら、人間の精神活動としての言語科学にどのように挑戦するか、暖かく見守りたい。</p>
---	---

個別評価

・ 研究の進捗状況に係る評価等（当初の研究実施計画に照らした研究の進捗状況）

<p>研究計画の進捗状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 .十分に達成できている 2 .概ね達成できている 3 .やや不足である 4 .まったく不足である 	<ul style="list-style-type: none"> ・ わずか1年半しか経過していないにもかかわらず、本研究教育拠点の目玉となる fMRI 実験装置を稼働させ、多くの興味深い実験データを得て、新たな知見を創出しつつあり、十分に達成できている。 ・ 研究発表の内容は、これからという感があるものも多いが、発足後1年半という段階を考えると、十分な進捗状況があると考えられる。fMRI を使った言語の様々な側面に関する理論や現
---	---

	<p>象についての興味深い検証が次々とはじめられている。これは、これまでの言語学研究の方法では不可能であった言語の諸問題の解決方法を切り拓く糸口となるであろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究用 fMRI 装置の導入とローテート研修制度の創設により、研究の進捗が著しい。この時期としては格段の進捗と思う。感心した。
<p>研究者の育成状況 (各種研究員の受入れ状況等を含む。)</p> <p>1 .十分に達成できている 2 .概ね達成できている 3 .やや不足である 4 .まったく不足である</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分野の異なる各種研究員が共通の土俵で研究交流しつつ育成されていると感じられた。特に印象に残ったことは、研究発表の司会を務められた川島隆太教授が、院生達に対して「先生」と呼びかけていたことである。これは、異なる分野から集う若き研究者達を専門家として尊重する雰囲気が存在することを現していたと思う。教授も院生も同じ土俵で切磋琢磨している様子に感銘を受けた。 ・ COE 研究員と博士後期課程学生の研究発表から、新しい言語・認知科学の創成期に参加しているとの心意気のようなものを感じた。博士後期課程修了者は、平成 16 年 4 月から全員研究(教育)者として、高等教育機関に就職予定と伺っているので、新天地での活躍が期待される。十分に達成できている。 ・ ローテート研修制度は、脳科学に興味を持つ文系の、若手研究員、学生が渴望している制度であり、すばらしい制度だと思う。就職についても説明いただいたが、健闘しているとのこと。これもまた感心した。
<p>研究上の国際交流の状況</p> <p>1 .十分に達成できている 2 .概ね達成できている 3 .やや不足である 4 .まったく不足である</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 十分に国際交流がなされている。公開講演で海外からの学者を招き、また、海外での研究発表が精力的になされていることがわかる報告書の記載がある。また、研究発表会場に発表者を含めて国際的な背景の研究者が集っていた。 ・ 国際会議での研究発表が活発であるだけでなく、平成 16 年度からは、韓国科学技術院、ドイツマックスプランク研究所との共同研究が企画されており、十分に達成できている。今後は研究目的に相応しい一流の海外研究機関との共同研究の推進、研究フォーラムの共催などの実のある交流が期待される。 ・ すでに国際学会を開催し、若手の留学生を受け入れ、高いレベルの研究を実施し、外国雑誌に論文を掲載している。すばらしいことと思った。
<p>総合評価</p> <p>1 .十分に達成できている 2 .概ね達成できている 3 .やや不足である 4 .まったく不足である</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ すばらしい進捗状況だと思う。より高いレベルの研究を実施する土台は十分にできたと思う。いずれ、Science, Nature などの注目度の高い雑誌に論文が掲載されることを期待する。 ・ 我が国の人文社会科学系の学術の国際貢献が、自然科学のそれに比べてかなり見劣りすると言われるなかで、文理融合型の新しい実証科学としての言語・認知に関する研究の拠点を構築しようとする意義は大きい。その目的に向けて、着実に成果を上げている。言語学の実証的な理論科学としての体系化については、今後に期待したい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 真に学際的研究拠点の地固めとしての人的、制度的な体制ができています。本格的な成果はこれからであろうが、大いに期待できる。
--	--

・ 教育の進捗状況に係る評価等（当初の教育実施計画に照らした研究の進捗状況）

<p>教育計画の進捗状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 .十分に達成できている 2 .概ね達成できている 3 .やや不足である 4 .まったく不足である 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文理融合を可能にするローテート研修制度により、進捗が著しいと思った。 ・ 広い視野と方法論を身につけた新しいタイプの研究者を育成することを目指した、ローテート研修制度というユニークな「教育制度」が立派に機能し始めているようで、今後おおいに期待される。 ・ 脳マッピング研究室への流れがローテートの中核となっているようだが、ローテート制度が有効に運ばれているようだ。このことは、これまでの常識であった学問トレーニングに照らしてみると、夢のような教育制度だと思う。それを可能にしているのは、教授陣の寛大で柔軟性に富む態度であろうと推察される。
<p>博士課程学生の育成状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 .十分に達成できている 2 .概ね達成できている 3 .やや不足である 4 .まったく不足である 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 博士取得の数（予定者を含めて14名）および就職者の数の状況からみて、育成状況は極めて優秀である。現在、大学の求人が激減している状況に鑑み、求職者である院生達の質の良さと共に研究課題が時代のニーズに適応していることによる結果と見ることが出来る。 ・ 博士課程修了生の就職も含めて、量・質ともに十分達成できている。 ・ 博士課程の研究を知る機会があったが、高いレベルの内容で、文理融合を体現した学生が育っていることを確認できた。
<p>国際的學生交流の状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 .十分に達成できている 2 .概ね達成できている 3 .やや不足である 4 .まったく不足である 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 院生の国際学会での発表が盛んであること、および海外からの院生、フェロー（研究員）の受け入れが盛んであることが明らかである。また、研究打ち合わせのための海外との交流も精力的に行われている。 ・ 2名の外国人若手研究者の研究を知る機会があり、1名の方が日本語による発表を無事にこなしていた。これもすばらしい成果だと思う。内容も興味深いものであった。もう一方は、英語で発表されたが、その内容は高度で、私の理解を超えていたが、本人にとっても、日本での研究はよい機会となっていると思った。 ・ 本研究教育拠点が形成されて1年半ということを考慮すれば、期待が過大かもしれないが、もっと海外の博士課程学生が在籍してもよいと思う。
<p>総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語学の学生が、脳マッピングにより、言語理論を検証していくことの第一歩が確認された。今後、言語理論の限界等を知らされることになり、そこから新しい問題意識が生まれ、言語研

<ol style="list-style-type: none"> 1 .十分に達成できている 2 .概ね達成できている 3 .やや不足である 4 .まったく不足である 	<p>究の新しい地平が切り拓かれると期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ローテーション研修制度というユニークな教育方法論を基本にした新しいタイプの研究者育成の仕組みが、計画通りに機能している。博士課程修了生がそれぞれの任地で受け入れられ、刺激を与え、その学生が本拠点に送られてくる、というサイクルが生まれることを想像しただけで、わくわくしてくる。 ・ ローテーション研修制度に象徴されるように、文理の異なる領域間の溝に橋をかける努力はすばらしいと思った。40名ほどの学生がfMRIに押しかけていると聞いたが、その成果であろう。
---	---

・ 研究成果の社会への還元状況

<p>論文・著書の公刊状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 .十分に達成できている 2 .概ね達成できている 3 .やや不足である 4 .まったく不足である 	<ul style="list-style-type: none"> ・ この時期にこれだけの成果を論文にされた努力は高く評価されるべきである。東北大はそうではないであろうが、一般に文系の学問では外国語論文が少ない。それはちょっとしたきっかけで変わるものだが、このプロジェクトがそのきっかけになっているように思う。 ・ 『平成14年度下半期・15年度上半期活動報告書』のページ数(1071ページ)が、論文・著書の刊行が十分であることを示している。中でも川島教授が脳と子供の能力の育成についての一般向け著書6冊は、直接社会への還元となっている。 ・ 非常に活発である。
<p>研究成果の一般公開状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 .十分に達成できている 2 .概ね達成できている 3 .やや不足である 4 .まったく不足である 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川島教授は平成14・15年度文化庁文化審議会・国語分科会において、脳マッピングと言語について研究成果に基づいた活発な議論に参加し、文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について」(平成16年2月、pp.13-14)の内容に大きく貢献した。 ・ これまでに多数回の公開講演会を実施しており、十分に努力されていると思った。 ・ 我が国において、外国語習得に関連している教育研究者は膨大な数に上る。この方面への公開が一層進むことが期待される
<p>新聞報道・マスコミ等での公表、招待講演等の状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 .十分に達成できている 2 .概ね達成できている 3 .やや不足である 4 .まったく不足である 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国紙の新聞記事15本、地方紙等の新聞記事7本あり、子供の生きる力の育成、痴呆の抑制などの社会において大きな関心事に還元できる可能性を公表している。また、川島教授の国語施策懇談会(平成15年3月)の講演は、わかりやすく説得力に富み、文化審議会の答申として国語施策に確かな影響を与えることとなった。 ・ 川島隆太教授の「脳を鍛える」シリーズと関連書籍、講演、新聞雑誌等での活躍は、社会の関心の高さを示している。 ・ 個人的にはマスコミ等に注目を浴びることが必ずしも研究のすばらしさを反映すると思っていないが、税金により実施されている以上、参加しているすべての領域の成果を分かりやすく説明することは必要なことと思っている。

<p>総合評価</p> <p>1 .十分に達成できている 2 . 概ね達成できている 3 . やや不足である 4 . まったく不足である</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本研究教育拠点が創設されて1年半で、社会貢献を評価するのは、本来無理がある。しかし、社会の高い関心と呼ぶ研究課題であることは間違いないので、スペキュレーションではなく、学術として精選された成果を正しく社会に発信することは大切であると思う。 ・ 脳のマッピング等最新の工学技術の成果が、言語と認知に関するこれまでの常識を屈返す可能性を秘めている。一般の人々の関心あるこの分野の研究成果は、子供に対する国語教育や、老人の痴呆症抑制など、社会還元は十分になされている。 ・ 比較的小さなグループによるプロジェクトとしては、がんばっていると思う。
---	---

・ その他のコメント

<ul style="list-style-type: none"> ・ 学際的な色彩の濃い研究集団が生まれており、それが、fMRI 等の実験装置を共通の場とすることにより、各種研究員の相互乗り入れを活発にする地盤が出来上がっていると感じた。とりわけ、研究盛りの中堅教官達が院生やフェローを包容力のある態度で自由に研究できる環境を整えていることに感銘をうけた。 ・ 従来の研究の枠組みにとらわれずに、新パラダイムを生むための研究拠点作りは、これまでの日本の研究の体質からみて容易ではない。しかし、ここでは、異なるディシプリンの批判に終始することなく、相互に異なる分野が認め合い、尊重し合って目的達成を目指す雰囲気が出ていて、純粋に研究の醍醐味を感じさせてくれた。 ・ なお、これまで、学問は西欧から学ぶところが多かったが、東洋からの発信による世界の言語と認知研究への貢献がこの COE から生まれる可能性があると考えられる。それは、日本語の書体による古文の認知に関する研究、中国人研究者による漢字の認知の研究等がされていることによる。アルファベット文字で考えられてきた西欧の学問体系では、気づかなかったことをこの拠点で発見し、世界に発信する事ができる日が近いことを信じている。 ・ 言語の認知を fMRI 技術による脳地図の作成という実証的研究方法論を核にして、言語・認知の研究拠点を築くとともに、学際的なマインドを持ち幅広い視野と研究方法論を身につけた研究者を育成しようとする、意欲的な研究教育組織である。外国語習得、脳障害に伴う言語生成・認知機能の回復医療など、国際化、高齢化をむかえた我が国にとって、極めて社会的関心の高い研究課題であるだけに、最近行き詰まっている感のある応用言語学や、試行錯誤が続くりハビリテーション医学からの期待は大きい。 ・ fMRI はあくまでも脳内神経活動の間接的な計測手段であり、脳地図の概要が見えたとしても地図上の道路網の構築状況まで知る手段ではないことを知った上でも、なお、本研究に期待するところは大きい。今後は、仮説を検証するためのタスクの設定方法と、他の脳活動計測技術との融合の方法を工夫することによって、言語・認知・生成の問題にどこまで迫れるか、楽しみである。 ・ 研究用 fMRI の導入とローテート研修制度の創設がすべてと思った。